



大氣物語抄
三九





三條乃ち此におと申持りの御事なり
 まうり乃ち此におと申持りの御事なり
 かいまより芳名を記し之久しく成りしに
 おのれんしと申持りの御事なり
 おのれんしと申持りの御事なり
 多しといふやと申持りの御事なり
 よしといふやと申持りの御事なり
 きつと申持りの御事なり
 うしといふやと申持りの御事なり
 かつと申持りの御事なり

三條乃ち此におと申持りの御事なり



けり勅云寛平の白女源氏傾子母管丞相女にけり
この白女は母の白女家なれどもけりけり此女も
亭子乃の白女は母の白女家なれどもけりけり
ゆり白女は母の白女家なれどもけりけり
すけり白女は母の白女家なれどもけりけり
まけり院乃の白女は母の白女家なれどもけりけり
かけりゆり白女は母の白女家なれどもけりけり
まけり

うらまはせしるるに 寛平は皇當今へ馳
乃のをとりのとち 奏せしるるるる
いりゆり白女は母の白女家なれどもけりけり
禁色の室旨くけりしるるる
勅云

貞信公昌泰三年正月廿日自參議 二十云云云の字
七条后宮温子 寛平之后昭宣公之女貞信公之姉
宮へけ院乃の白女は母の白女家なれどもけり
ぬをの白女は母の白女家なれどもけり

服衣をぬくはまきん乃の白女は母の白女家なれどもけり
まきん乃の白女は母の白女家なれどもけり
の白女は母の白女家なれどもけり
まきん乃の白女は母の白女家なれどもけり
まきん乃の白女は母の白女家なれどもけり
まきん乃の白女は母の白女家なれどもけり
まきん乃の白女は母の白女家なれどもけり

實平は皇の所請をうけてしゆるはむもひてかく
るやのいかりのひしよをよもり。うやほし山井
公實平乃皇女をれがむれさくもありたりと
おし。ちめ服乃うちにしるあひをまら
あきん乃のさあしりるよりかくし
とそらんあきほらる。ちかひ中無らんもの
まらる。

勅云貞信么ふ歴中無而四位侍從任參議。後太
無いしは信以多補任上るを勅く

亭子のこのれはよにおあきおとく大井につふ
まうりまらる。ちかひのやまにらるくいと

かもしありたる。まらりあてぬてはむもひて
らんういもあうあるあらんまらる。かみ十奏
くせさるえんまらる。はらへ

けは實平は皇太女は母のよしは信をいと具
まらる。事とまらる。に。霧立洲。秋山浮
采。猿呼山峽。ちかひの九首まらる。

信らまらる。ちかひの思引のひあるふ
よああぬとまらる。ちかひの時いし。世継
まらる。序録を黄くのぬ。まらる。まらる
し。と信り。大井。太子傳。田乃用。あに大
つる溝。わし。ちかひ。大井川。日奉

井溝れりありありとゆる。はきもあしんり。
今上乃は世つらうも無あはしとく。是ハ眞信公
の御とくごり。於建集より亭子院大内御
をまきしはきもまぬきあことおわせのまじ
るのよーうせんとして小一条大政大臣とま
まきやまきしはきもあしんりあり
まひとくごりいひまきいん

大内御にまきもあしんりありとくごり。玄旨
法下百人一首抄云はきもあしんりありとくごり
とにちしすしてはきをまきつけよとおおき
對してごり院のま御幸夫子乃ハ新書とくごり

ともつらきをも割あしんりありとくごり
とあしんりありとくごりありとくごりありとくごり
はけらある事ありとくごりあわれはきとくごり
さしんりありとくごり

大井乃はきもあしんりありとくごり
おあわしり季繩乃が將とくごりありとくごりありとくごり
くもあしんりありとくごりありとくごりありとくごり
とありとくごりありとくごりありとくごりありとくごり
あしんりありとくごり
あしんりありとくごりありとくごりありとくごりありとくごり
きり乃やまきもあしんりありとくごりあり

奥義抄に同きるれつとあるりしを
 文字にも當初とりたるはけりおれ人の
 ひたむけに山里の村より来りて
 るれつとんとよめるは答はれ
 に當時ともけりされしなりと
 なるもいふはまはけりしを
 にとりて大和物語のうら
 くる女乃とていふはけりし
 きてとあるは當時のうら
 何事と傳へしはけりしなり
 乃とていふはけりしなり

してし耐よりとていふはけりしなり
 なるにやちるしし

平仲がさこのあつるけりしに

勘る貞文左兵衛作從五位上左中將好風男世号

平仲は平にけりしなりとていふはけりしなり

なる人なりとていふはけりしなり

あつるけりしなりとていふはけりしなり
 わさハエたるはけりしなりとていふはけりしなり
 けりしなりとていふはけりしなり
 けりしなりとていふはけりしなり
 けりしなりとていふはけりしなり
 けりしなりとていふはけりしなり
 けりしなりとていふはけりしなり

よめる。ふももあつりたるはちりたれ、
おのり Camorator

いさち ぼま。右宮は侍と女まもり。さ
るるるるるるるるるるるるるるるる
い 三三三三三三三三三三三三三三三三
いさちらりるるるるるるるるるるるる
ちさちおのりりりりりりりりりりり

いさちらりるるるるるるるるるるるる
向くゆるるるるるるるるるるるるる
いさちおのりりりりりりりりりりり
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる

いさちらりるるるるるるるるるるるる
やけりらりりりりりりりりりりりり
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる

いさちらりるるるるるるるるるるるる
或はのり 濃コキ播練カイテリ也。表裏紅
乃折るおより中重ある其乃 装束ウチダマ也。末摘花
其ははらしむるおあさいものいなりこのあるるるる
いさちらりるるるるるるるるるるるる

これこそまのしほ

あきしうらひのしほあせむ川に
とほるうらひあしほあせむ

せのれくる川は東に流れ浅くはるもいへるも
とひのりたりはれはくはるもあせむくもなり。易之
習坎象曰水流不盈行險而不失其信。のりもその
つらゆもや。え良れくは時代は同じあ合も
まはるもあひまじ。おの心は不足もあひ
まひしうははる相院乃ははるくはえ良れくは
殊勝のうらひあせむつらあせむのこまらあせむ
より井桂おしゆり。國は名あし新物撰より

五

あせむのりあせむあせむあせむ

あせむのりあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

あせむあせむあせむあせむあせむあせむあせむ

けうの中絶れちよよとやうなれがれは縁乃
こもれのちよよとや

あ

うへれどあちのちへうあなち縁の
こもれと事代と事代と事代と

あちのちよよと事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あめれと事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あ

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

あなち内裏と事代と事代と事代と
事代と事代と事代と事代と

うに思ひかゝるまゝに思ひま

けき事遂に後終いなるおまをりびに始めあひま
いせりしにいおまをりたえさししに思ひあ
れくあしそむりそ家ぬがよれよめれいれえに
海よしちし時漢くちいせ孫一氣ぬれはる關せし
南院りしよもいしつしち家れしじひのめいの志
のむとめいそむたおまをりたとの内侍の人のま
りかゝるしちしひりりるまをき家れししあや
きもいしちさるの思ひしにきんくたりたり
かゝるしちまれいしち家れししちのめいさん
南院のつしちし後撰の作也。おまの思ひの

内侍の人のまゝ。勅云、尚侍貴子。入文彦太子。宮天慶
元年任尚侍。貞信公女。せつしちも貞信公女。いし
ちれをりしちまをりしちひとちのいしち乃
ちとあよてかゝるしちまをりしち乃。忠孝公思

かゝるしちまをりしち乃の

おまの思ひかゝるまゝに思ひま

とて友をなすしち乃。忠孝公思
おまの思ひかゝるまゝに思ひま
と傳り。おまの思ひかゝるまゝに思ひま
てたし。孫まをりしちまをりしち乃。忠孝公思
のあしち乃。忠孝公思

衛風習之谷風以陰以雨と傳り。而もよまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

よまありしとまのこまよまありしとまのこま

あまれやうとまねてのちらまなぐらまづり此率人ふ
はまそいひまらりげまもたまらり出まらりけり
てうらりよまらりやまらり
まな乃まづり公事根原よ云之清み臨時祭三
月中午日賀茂臨時祭十一月酉日づまらりも率
人あり。彼園日吉よも臨時祭いあれと勅使いり
まら率人のゆはち。是ハ公平のむとめとま物
まに出まらりよまらりあれまらりけりまらり
まらまらまらまらまらまらまらまらまら
あまらりまらまらまらまらまらまらまら
新たに臨時祭いあまらりまらりまらりまらり

きいひて心をくたはせしめん又新勅撰をの
 修訂書のうへに山ありよすねる衣のよも侍り
 け物浴衣心よりまじき糸中筋よとれん所より
 ようくあつらひせしりよ物もあつらへるを
 ねよとせよあれはうらみの物と見せしめし
 ひとたあえつゝまはりまはすねるをいよ
 めるあつらひせしめたるもの世々あるを又
 するゝまはりあつらひせしめたるをいよ
 うとせしめし
修訂書にまじひのきいひすりれ人のきいひ
 きいひより花も餘計なりあり。
 かくて書集附やまよひしよとせしめしり
 ともろのよもあつらひの物と見せしめし

ひとつらりしものよ
 一人あつらひしもの層と見せしめしり
 かねりし物と見せしめしり
 とあつらひしものよとせしめしり
 おかろしものよとせしめしり
 わたしのよとせしめしり
 真いもの大層と見せしめしり
 真いもの大層と見せしめしり
 のよとせしめしり
 とせしめしり

露の秋うつさ物なれさうのし秋をいのみせふ
いづれり露の袖うらたるともやま葉のむら
露のいづれゆらうらうらあふのさうのむら
とらん

秋もいと露もさうのねこいさのみ
わづらうらうらうらうらうらうら

さもた長のうらうらやれ秋りれさうのむら
あはれ長し秋きりし露もさうのむら
とをさうらうらうらうらうら
きんひらうらうらうらうら
あがきもさうのむら

うらうらあはれ秋のむら
上のうらあはれさうのむら
あはれさうのむら

はれさうのむら
あはれさうのむら
あはれさうのむら
あはれさうのむら

はれさうのむら
あはれさうのむら
あはれさうのむら
あはれさうのむら

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

あつりもあつれいりあ

一合は生苑乃きづまよとあるのをおめりり
しつもの白くあもの向乃席れやうあまらあひ
身乃らうのあまの事を志あすこふか飯うこの
うまよとあひあしと我。

本院乃あつりもあつれいりあ
つりりもあつりもあつれいりあ

本院の少方時平公室棟梁者前へ注し師の夫
納多伊豫物作りたるは國種の大納言とある

とある。長良く一男昭宣公と見えまゝのあ
まらあつりもあつれいりあ。敦忠をともしつ

ころ時平公は納言とあり酒のあつり

とてすまをつけしむるに

秋乃やまもやうとにふゆん

山乃彩れあなうらまへて海に待つは
とらつあつりくる

はくまうくる女あうおのまやうとよくる

人をまのやどはくくおちりよくる

ちきりし月のうちりあつておと

いふも男乃まゆとくいふ月の中あつて

つひちきりしつゝあつてあつてあつてあつて

とらんつりくる

これまはくく成くる女

秋風乃ころあつてもさなはとさき

あきくるころあつてもさなはとさき

吹くに秋れあま乃志あつてしむやま風

をあししとつて中法家乃歐陽氏秋色

賦すも其意蕭條山川寂寥故其為聲也凄々

切と呼喚奮發豊草綵縹而争茂佳木葱蒨龍而可

脱草拂之而色變木遭之而葉脱とつてけあれ心

やつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

よりあつてあつてあつてあつてあつてあつて

とつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

木あつてあつてあつてあつてあつてあつて

せんし衣袂ゆいりなるといふ事あり
めりやうやう婿くあひさうしんを
ちちえまといふとさうあるあり
とらふ事あり
し衣の何れをすのまれかゝる
ワラキもいふ乃ちらもつとめ
志きこゝの妻場をいふ。其の志をいふ
めや志きこゝ乃ちのこゝろ志こゝの志
とちんありなれはれをいふ。又字法に
いふんといふの志をいふ。志あり
こゝろすゝるこゝろやまの鹿あり

ひとりぬるよまわひいりたる
くうこまやま山藏いふもあり。うゝあひ
物ありあつるを欲くし。命をいふ
も独ぬいぬもいふ。又只應れ書こゝろ
よゝいふもいふ。宰相乃ちこゝろやま
こゝろいふありたり。さうもいふ
はくこゝろ女をいふ。すゝるあり
よゝいふもいふ。宰相。一字不^ス本^ス勳^ス此^ス名
参議中^ニ不^ス見^ス。橘良弼延喜十九年参議六月宮
内卿二十年二月平。参議常主孫從五位上吉雄
二男。若山人歟。やまのこゝろ大和掾。

小滋春のうせしるゆゆれん決前證後乃復し

この世は君を尊物のあるまゝよつてしるけしやあ
じらぬことぞもしくん乃まづしをせん時をさるる心
ある物よそひもあつたあをれりしやあつたあ
あつてしるけしるけしるけしるけしるけしるけし
のしよやとらふあは海邊よせんありけるるるるる
よそしあつたけあつたけ

あつたけしるけしるけしるけしるけしるけしるけし
向乃事伊勢物くうり古今集くうり何り之江江身
もも奥羽乃八十嶋くうりあつたけしるけしるけし
乃秋内れあつたけしるけしるけしるけしるけし

きまひいしるけしるけしるけしるけしるけしるけし
袖中抄に日本紀を引てあつたけしるけしるけしるけし
きははあつたけしるけしるけしるけしるけしるけし
わろもくやあつたけしるけしるけしるけしるけし
あつたけしるけしるけしるけしるけしるけしるけし

洞をあつたけしるけしるけしるけしるけしるけし
相通すあつたけしるけしるけしるけしるけしるけし
あつたけしるけしるけしるけしるけしるけしるけし
つきてあつたけしるけしるけしるけしるけしるけし
くへ海もくあつたけしるけしるけしるけしるけし
あつたけしるけしるけしるけしるけしるけしるけし

古乃小竹田丁子の妻同し菟會處女の松きつき
これ 仙覚抄云サ、タヲノコトハサ、トハサ、ケキト云詞也
イサ、ケキトハカロクトキヲノコト云心也。兵ハカク
トキヲヨキニスレヤ。サ、タヲノコト云クノ字ハ詞ハ助

菟會ハ所ノ名ニヨキツキハ墓ナリ

見之んしりののちのこ
今二首見菟原處女墓歌ありげゆりり乃

まとおくことある事あれハ墓
ひとりハちみり十む男姓ハじが 津は玉

菟原郡あり。在クアヤ。但万葉ノ
菟原社士と事テアハ、い、ことトカクア、菟

會處女も阿るを仙覚、説ク菟會ハ所ハ名

と之り。所れとモ物治るも、うも、れ、あり

あ、や乃軍と阿まハ、うも、うも、同、あり

や。今独り、つれ、あ、れ、人、も、ん、ま、ま、姓、ハ、ち、也

万葉乃今一首、れ、う、も、血、活、社、士、も、あ、ま、ま、

あ、ゆ、り、え、あ、あ、に、ハ、津、み、ら、乃、本、枝、あ、び、

ア、キ、シ、ガ、コ、ト、陳、勢、社、士、も、も、ま、ま、

か、く、し、も、あ、あ、い、い、い、い、い、い、い、い、

ら、ん、う、こ、ま、ハ、あ、え、め、も、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

蓬葉^{ホウ}交りしつりし心なうひて女のうやこ
おを志こふさぬなよやまをくるよやあふ命生
田川よとのゆをわらうとよやまをくるつり
とらりはまよはるまのあをほらしとて女
宮やどれのおやういのまひまよるまも竹
まのく大いふとよまらるあふとあふ
おま少将井尼伊勢太輔まあをまがて後
つるをほあまといつとゆるはるまよや通後
乃ほ拾遺集しつれまじしこらまをゆり又
いふこく彼まよりのまよるまよまよるまよ
うまら河ほくふあつるまらまら

長束乃命姫

そも七条后乃友女あはし

はのみまもとほともくしとらちまらるる

あやまはんくまえおまのく

つらまもといふまらあつこむ那ゆあは

はあつらまほるとまららほくほれうまは

まらもたられとくまれおまをわらすま

下とら乃別苗

勘云典侍春澄朝臣洽子古今作者寛平遺談云日
給之物等類總可處分洽子朝臣自昔知余所之事下
生之間猶令兼知之云云參議式部大輔善經女

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, filling the left page of the manuscript. The text is written in a dense, flowing style with many loops and flourishes.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, filling the right page of the manuscript. The text continues from the left page, maintaining the same dense, flowing style.

